也彼處有神名曰脚摩手摩其妻名曰稲田宮主簀狭之八箇耳とゝく出雲ハ山陰道なり安藝ハ山陽道なり出雲ハ安藝より出ることゝもいふべし安藝ハ出雲より裂かゝることゝもいふべし出雲の説を是なりといたて安藝の説ハ非なりとしるべし安藝の説ハ非なりといたて出雲の説を是なりとい

舍人親王上古の事を後世より是非をへさ事を記れなりて毎説を出記しぬふと見へより大為元神社の説も如彩心得侍りて見侍ふ大なるべし神社なるべし江府兼侍講学士林先生桂林篇芹田貞運戸田秀登両乃学者国史四記毎説とゝに拙ぬゝざる事ハ神武の一世小あり和論語に高海大明神のかゝ大為元大明神とあり是吹浦村より高海て高海山より近産の概とゝいふべし高海山と大為元格別ゝ言歟ゝる事眼を著へを事なやゝ山険阻ゝて人迹海を不出附雪を載く事実孫の文面のごとし夏月雪の消迹を見て亡人返祀牛種苗物とゝいふ歟